



令和8年度

園だより



文京区立根津幼稚園

安全・安心な環境をつないで

園長 小島 喜代美

長かった夏休みを終え、いよいよ2学期がスタートしました。子どもたちは、久しぶりに先生や友達と再会したことを喜び、園内には元気な声が響いています。長期休業があったことで気持ちも新たになり、心も体もひと回り大きくなったように感じます。

今年の夏は、7月28日に令和8年熊本地震、8月13日夕方から令和8年8月千葉豪雨による甚大な被害が起きています。千葉市在住であり、初めて線状降水帯の脅威を目の当たりにしました。滝のような雨が何時間も降り続き、ずっと雷鳴が響く様子は、「これまでに経験したことのない」という言葉を実感し、いつもとは様子が違うことへの怖さを肌で感じました。いつどこで災害が起きていても不思議ではない状況の中、私たち大人が自然環境に関心を持ち、未来を担う子どもたちに安全・安心な環境をつないでいく必要があります。被災された皆様には、お見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興を願っております。

さて、この夏は8月上旬に第74回全国幼児教育研究大会群馬大会、8月下旬には第80回東京都公立幼稚園・こども園教育研究会、第77回日本連合教育会長野大会に参加いたしました。私たち教員にとって、夏休みはじっくりと日頃の教育について振り返り、次の教育の充実に向けた充電期間でもあります。

その中の第74回全国幼児教育研究大会群馬大会では、「一人一人のレジリエンスを育むために－しなやかでたくましく生きる力を支える環境や関わり－」を大会主題として、全国各地から集まった先生方と協議を重ねました。「社会が大きく変化し、貧困や自然災害など地球上で様々な問題が起きている今、未来を生きる子どもたちには、どのような状況の中でも自分らしさを大切に、他者とつながりながら歩いていく力がより一層求められている。そのためには、乳幼児期から安心できる環境の中で、好きな遊びに主体的に取り組み、うまくいかないことや思い通りにならないことも受け止めてもらえる経験を重ねることが重要である。こうした日々の積み重ねが、人を信頼する心や自分を信じる力、柔軟さや粘り強さへとつながっていく。園生活の中で、子どもたちは挑戦したり、思いを出し合ったりしながら、保育者や友達と共に遊びや生活を創り出す楽しさを味わっていく。その過程でレジリエンスが育まれていく。乳幼児期の遊びや生活を改めて見つめ直し、子どもが安心して挑戦できる環境や思いに寄り添う関わりについて考えていきたい。」との思いは、未来を担う子どもたちの幸せを考えると欠かせない内容であると考えます。また、『幼保小の連携』の分科会では、講師の文部科学省初等中等教育局 視学官横山真貴子先生から、幼小の共通点として①子どもの育ちをまん中に置く。②教職員同士の対話を重視。(子どもの姿から発信する) ③「交流」そのものを目的としない。(子どもの学び、姿を理解する。何を育てたいのか) ④学びの連続性の保障。以上の4点が挙げられました。乳幼児期からの資質・能力の育成に向けた「遊びの深まり」を実現するためには、「もっとやってみよう」「どうなっているの」という好奇心や探求心をもって遊ぶプロセスや連続性が大切であるというお話を伺い、日頃の子どもの姿とつながりました。幼児教育から小学校教育への『架け橋期の教育の充実』に向け、教員同士が話し合い充実努めます。



5歳児 弥生の森で虫探し



3歳児 伸び伸びと
フィンガーペインティング



4歳児 種から育てたカブが大きく
なり収穫して味噌汁で味わいました

今年の運動会は10月17日(土)に開催します。どうぞご予定ください。

2学期も保護者・地域の皆様のご理解とご協力をいただきながら、教職員一同『チーム根津』で子どもたちの成長を支え、幼児教育の充実にも努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。